

京都市高齢者施策推進協議会

「第10期京都市民長寿すこやかプラン」策定に係る各ワーキンググループでの議論状況の報告について



京都市
CITY OF KYOTO

日 時：令和8年6月30日 10時～
場 所：京都市役所分庁舎第4・5会議室

①各ワーキンググループの開催予定
とテーマについて

京都市高齢者施策推進協議会（本会）

常任ワーキンググループ

地域共生推進 ワーキンググループ

地域で支え合う地域共生のまちづくりの推進に関する事項について議論する。

介護・施設サービス等向上 ワーキンググループ

住み慣れた地域で暮らし続けるための介護サービス等の充実と住まい環境の確保に関する事項について議論する。

担い手確保推進 ワーキンググループ

介護の担い手の確保・定着及び育成をはじめとする介護サービス等を持続していくための取り組みの推進に関する事項について議論する。

特別ワーキンググループ

介護保険施設等事業者選定ワーキンググループ

介護保険施設等の設置・運営を行う事業候補者について、多角的な見地から選定を行う。

【主な協議事項】

- 1 事業候補者の募集要項及び選定基準に関する事項
- 2 事業候補者の選定に係る事業（地域密着型サービス事業者の選定を含む。）
- 3 事業譲渡に係る審査（追記）

開催予定 と テーマ

開催予定とテーマ（地域共生推進WG）

第1回
(6月12日)

- ・ 地域における高齢者の見守り活動の推進について
- ・ 高齢者に関するケアラー（ワーキングケアラー）支援について

第2回
(6月16日)

- ・ 地域における支え合い体制の構築について

第3回
(7月下旬)

- ・ 総合的な権利擁護について
(身寄りのない高齢者問題、成年後見等)

第4回
(8月下旬)

- ・ 認知症施策について

第5回
(2月頃)

- ・ パブリックコメント修正案の確認

開催予定 と テーマ

開催予定とテーマ (介護・施設サービス等向上WG)

第1回
(6月10日)

・在宅医療・介護連携の推進について

第2回
(7月下旬)

・要支援者等の自立支援・重度化防止について

第3回
(8月下旬)

・第10期介護保険事業計画における介護サービス量の推計・整備目標数の設定

第4回
(2月頃)

・パブリックコメント修正案の確認

開催予定 と テーマ

開催予定とテーマ（担い手確保推進WG）

第1回
（6月16日）

・介護のしごとの魅力発信・社会的評価の向上について

第2回
（7月下旬）

・介護の担い手確保・定着裾野拡大について①

第3回
（8月上旬）

・介護の担い手確保・定着裾野拡大について②

第4回
（8月下旬）

・介護現場のケアの効率化・負担軽減について

第5回
（2月頃）

・パブリックコメント修正案の確認



②各ワーキンググループの議論状況について

論点と主な意見（地域共生推進WG）

地域における高齢者の見守り活動の推進について

論点① 地域包括支援センターの取組支援

地域における高齢者の見守りについては、これまで地域包括支援センターが一人暮らし高齢者訪問事業を実施し、支援が必要な方を把握した場合は、適切な支援につなげるなどの成果を上げてきたが、今後も一人暮らし高齢者の更なる増加が見込まれる中、地域包括支援センターが、当該事業を継続・充実させ、期待される役割を十分に果たすために必要な取組は。

主な意見について

- ・ 地域包括支援センターを地域で活動されている方や日頃から高齢者と接する事業者にもっと知っていただき、つながりや連携の仕組みを作っていくことが大切。そうしたセンターを支える小さなネットワークを増やしていくことで、センターが地域に住む方の状況をより把握できるようになり、事業効果が高まるのでは。
- ・ 地域密着型サービス事業所が、センターのブランチ的な役割を果たすことで、地域の高齢者の困りごとをいち早く察知し、センターと効果的に連携できるのでは。
- ・ 事業を継続するためには、対象年齢の見直し（引き上げ）も検討すべき。
- ・ 国の調査でセンターの業務負担軽減に効果があると分かっているものに京都市も取り組むべき。

論点と主な意見（地域共生推進WG）

地域における高齢者の見守り活動の推進について

論点② 一人暮らし高齢者の見守り体制の充実

民間企業の見守りツールの活用等、一人暮らし高齢者の見守りをどのように充実していくか。

主な意見について

- ・ 訪問等の支援を拒否される方もいるが、地域による見守り活動が大切だということをもっと啓発していくべき。
- ・ 一人暮らしの高齢者だけでなく、高齢夫婦世帯にも支援が必要な方がたくさんいるので、そちらにも目を向ける必要がある。
- ・ 地域の通いの場でのつながりの中で、最近来なくなった方への気づきなど、住民同士による見守りも重要。

論点と主な意見（地域共生推進WG）

高齢者に関するケアラー(ワーキングケアラー)支援について

論点①

介護離職防止に向け、企業の介護保険制度に対する認知度の向上、理解の促進には、どのような取組が有効か。

主な意見について

- ・ ケアをする側の年齢層があがっている。その人たちも社会で役割を担っている人たちなので、幅広く見守っていかなければならない。企業にはさまざまな事例を示して理解を求めていく必要がある。
- ・ 企業に対し、高齢者の状況や介護がどのようなものなのかを地道に示していく必要がある。
- ・ 企業の取組のきっかけとして、補助金などのインセンティブは重要だと思うので、こういった事業の周知をしていくことに効果があると思う。
- ・ 医療に携わる企業が取り組んでいかないから行わないと一般企業には広がっていかないも取り組みにくいと思う。広報周知は引き続き行っていただきたい。

論点と主な意見（地域共生推進WG）

高齢者に関するケアラー(ワーキングケアラー)支援について

論点②

ワーキングケアラーを支えるために、どのような取組が必要か。

主な意見について

- ・ケアラーへの支援については、ケアラーの実態を包括等が把握することが必要である。
- ・自営業等の人にも一定数おられる中、企業へのアプローチだけでは制度が利用できない人もいたので、そのような方々へのアプローチとして、相談窓口などの制度は必要だと思う。
- ・サービスを複数利用すると費用負担も大きいため、費用面の支援も必要。
- ・民間企業の取組内容や、取組に対するインセンティブを周知していくことが大事である。

論点と主な意見（地域共生推進WG）

地域における支え合い体制の構築について

論点① 地域の支え合いの仕組みの構築と活動の活性化

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、多様な主体の参画による支え合い活動を充実し、すべての人に「居場所」と「出番」のある社会を実現する必要がある。こうした地域の支え合いの仕組みをどのように構築し、活動の活性化を図るか。

主な意見について

- ・認知症などで介護が必要になっても、企業と連携して軽作業を行う取組が増えてきている。予防支援の段階から高齢者がボランティア等で介護事業所と関わりをもち、事業所がその方のことをよく知ったうえで支援に関わることで、介護が必要になった後も「居場所」と「出番」のある生活の継続につなげられる、こうした「予防と介護の連続性」が大切。
- ・地域の活動団体と事業所の連携を更に深めるなど、京都市には支え合い体制の構築・活性化につながるコーディネート機能に一層力を入れて欲しい。
- ・地域の活動団体の状況をより丁寧に把握し、困りごとや課題の解決に向けたサポートを手厚くしていけば、活動の継続や活性化につながるのではないか。
- ・支えられるだけでなく、「支える側」にもなることで生きがいを感じられるような場を作れるとよい。
- ・高齢者に限定せず、多世代交流型の支え合いの仕組みが作れるとよい。

論点と主な意見（地域共生推進WG）

地域における支え合い体制の構築について

論点② 地域の高齢者など多様な主体の活躍

これからの支え合い体制の構築には、介護事業者はもとより、元気な高齢者や民間企業など、多様な主体の参画が欠かせない。「通いの場」での社会参加を通じた支え合いなど、多様な主体の活躍をどのように促進していくか。

主な意見について

- ・裾野を広げるためには、それぞれの高齢者の興味関心を地域活動に結び付ける取組が大切である。
- ・元気な高齢者に社会参加を促すアプローチ方法として、高齢者がよく利用する市バスを活用した広報や、薬局など地域の店舗と連携した情報発信等が効果的ではないか。
- ・居場所をつくりたいと思っても、資金面等の不安があるので、そこに対する行政からの支援があれば活動者が増えるのではないか。
- ・民間の建物等をパブリックスペースとして活用できる条件を整備し、そこと活動団体をつなぐ仕組みがあれば、居場所づくりが進むのでは。
- ・担い手の確保には、定年前の方をターゲットにアプローチすることが効果的ではないか。

論点と主な意見

(介護・施設サービス等向上WG)

在宅医療・介護連携の推進について

論点①

高齢者が、自らの希望に基づき、住み慣れた地域で医療や介護サービスを利用しながら暮らし続けることができ、可能な限り、今お住いの場所で最期まで看取ることができる体制を構築（＝地域包括ケアシステムを深化・推進）するためには、在宅医療、介護をはじめとする多職種が連携し、高齢者の状態に応じた適切な支援を一体的に提供できる体制を一層強化していく必要があるが、どのような取組が必要か。

主な意見について

- ・引き続き、多職種が参加する研修等を実施するとともに、研修等に参加しない層（無関心層）へのアプローチ方法について踏み込んだ検討が必要。
- ・顔と顔の見える関係の構築には、研修等の場も重要だが、日々の業務の中で、医療と介護の専門職が個々に顔を合わせる機会をもつことも重要。
- ・在宅医療と介護の連携強化だけでなく、それらを必要とする高齢者を支援につなげる取組も重要。認知症については、認知症初期集中支援チームが大きな役割を果たしている。
- ・今後とも在宅医療・介護連携支援センターが連携の核となり、医療・介護の専門職への支援や更なる連携の促進を図っていく必要がある。

論点と主な意見

(介護・施設サービス等向上WG)

在宅医療・介護連携の推進について

論点②

医療・介護の担い手確保が懸念される中、より効果的・効率的な連携を図るため、例えばICTの活用等、連携の質を高めることが重要と考えられるが、どのような取組が必要か。

主な意見について

- ・まずは既存のICTツール（京あんしんネット等）の活用を促進すべき。
- ・そのうえで、京都市と状況が近い他自治体の好事例を参考に、既存のツールをより使いやすいものにアップグレードするのがよいのではないか。

論点と主な意見（担い手確保推進WG）

介護の仕事の魅力発信について

論点① 介護のしごとの魅力等の発信内容及びその方法

介護現場で働く職員の声や職場環境などを発信し、介護のしごとの魅力を多くの市民に理解してもらえよう、どのような方法で発信することが有効か。

主な意見について

- ・介護業界に対するイメージを肯定的なものに改革する必要がある。
- ・魅力の発信方法については、人と人とのつながり（ネットワーク）を活用した方が効果がある。
- ・異業種で勤めている方が介護の仕事に携わる機会も大切。
- ・以下について発信することも大切
 - ⇒介護職員としてのロールモデル
 - ⇒介護施設で働く看護師の働き方
 - ⇒各事業所の先進的な取組
- ・京都市において、介護の魅力を発信するためのプラットフォーム（各事業所が介護の魅力を発信）などを作成いただきたい。

論点と主な意見（担い手確保推進WG）

介護の仕事の魅力発信について

論点② 介護の関心層の掘り起こし

関心層が介護の現場をより深く知ることができるよう、どのような対応が必要か。

主な意見について

- ・現場での体験や介護に触れる機会をどれだけ多く創出できるかが重要。
- ・定年退職した方の中には、介護に関心が高い者（関心層）も多いが、就職フェアなどには来られないため、掘り起こしが必要。
- ・学生の実習などの受入も大切であるが、実習の受け入れ施設の職員の労働時間が割かれる。実習を受け入れた際の補助があれば、ありがたい。
- ・就職説明会などで中堅職員等から就職後の研修制度やキャリア（仕事と生活・子育てとの両立など）などについて説明をしてもらうことも効果的である。
- ・京都市教育員会と連携を図りながら、小学生のボランティア体験などの機会を増やした方がよい。

論点と主な意見（担い手確保推進WG）

介護の仕事の魅力発信について

論点③ 関心層を介護職員としての仕事につなげる方法

関心層に対して、介護職員としての仕事につなげられるよう各種資格取得などについて、どのような対応が必要か。

主な意見について

- ・研修制度などのキャリアアップができることをアピールすることが大事。
- ・介護施設が地域の発展にどのように貢献しているかを地域の方々と共有する場が必要。
- ・業務の効率化が進んでいる事業所は、採用時のインセンティブになるだけでなく、職場の定着率も高くなる。お金がかかる機器を導入しなくても、業務の見える化などにより、効率的に業務を進め、働きやすい職場環境を作ることができる。
- ・資格や技術を持った介護職員の努力があるから、介護制度が成り立っていることについて市民啓発も必要。
- ・学生のボランティアから就職につながる可能性がある中、ボランティアの受入を広げる仕組みづくりが必要。